

(六) 北川・鹿島神社の鹿島踊

町文化財 昭和五十四年七月指定

北川にある鹿島神社は、北川を守る神様を祀る神社です。神社が建てられた年などははつきりとわかりませんが、室町時代終わり頃の天文十二年（一五四三年）に建て直したことを書いた棟札があつたとされています。このことから、少なくともこの年より前から神社があつたと考えられています。

鹿島神社に祀られている神様は、武甕槌命です。この神様は、茨城県鹿嶋市にある鹿島神宮などで祀られており、日本の東の地を守る神様として信仰されています。

鹿島神宮では、正月などに占いが行なわれ、その結果が「鹿島の事触れ」と呼ばれる人により、各地に伝えられました。この人たちは占いの結果を伝えるときに踊りによって人を集め、神社のお札などを配ったそうです。このときの踊りが「鹿島踊」であるといわれています。

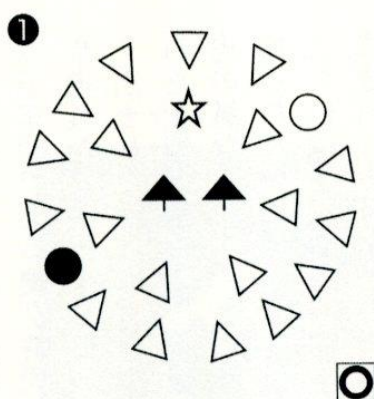
「鹿島踊」は、今では鹿島神宮やその周りでは踊られていません。今、「鹿島踊」が伝わっているのは、神奈川県の小田原市から熱海市、伊東市などの海に面したところにある神社です。その中で、北川は南の端にあり、北川より南では踊られていません。

踊りは、各地で少しずつ違いますが、北川の踊りは歌を歌う人を中心に円形になって踊る「ま踊り」と、正方形になって踊る「さ踊り」があります。この「さ踊り」と「ま踊り」を歌に合わせて順番に踊っていきます。また、「さ踊り」から「ま踊り」に変わるときに直角に向きを変えます。北川の「鹿島踊」は、お祭りの前夜（十月二十六日）と、お祭りの日（十月二十七日）に踊られています。

北川などの東伊豆地方で踊られている「鹿島踊」は、大変めずらしいものであり、平成十七年（二〇〇五年）に国から「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選ばれています。



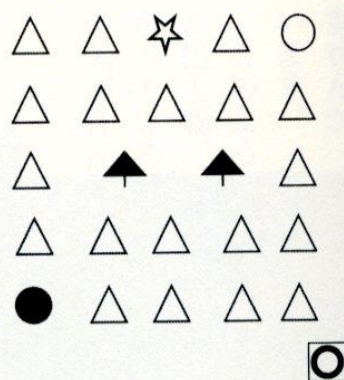
北川鹿島踊隊形図



〈マオドリ1〉

立ち上がって右回りに踊り始める。シャクは中の円に移動し、ウタアゲは円心で歌う。

②



〈サオドリ1〉

ウタアゲは移動せず歌う。シャクは右回りに踊り、ウタアゲの後ろに来ると踊り手の間を割って正面に飛び出す。シャクが飛び出すと、ほかの踊り手は5列に並び替える。